

理工系学生のための英語研修プログラムのレポート

上智大学理工学部機能創造理工学科 3年

学籍番号：A1577893 渡部 達也 提出日：2017年4月30日（日）

この度は海外短期研修プログラムに参加するための奨学金を頂けたことに対してお礼申し上げます。参加した海外短期研修プログラムはアメリカのノースカロライナ大学シャーロット校で2017年2月22日から3月14日にかけて行われました。

まず、研修プログラムの内容についてです。プログラムは専門的な内容を扱うのではなく、英語そのものを勉強する参加型の授業を現地大学で受け、さらに現地大学の研究室、シャーロットの近辺の企業、工場の見学及び質問を英語で行うという形態であり、更に現地の学生と一緒にアクティビティに参加する事で現地の学生との交流を通して、語学と文化を学ぶプログラムでした。授業の内容としては主に英語を使って工作やプレゼンテーションを行いました。例えば工作ではTED talkでも取り上げられた制限時間内にチームでパスタやテープを用いたタワーの頂点にマシュマロを載せてのバランスの取れるようにタワーを作り、そのタワーの高さを競う「マシュマロチャレンジ」を行ったり、プレゼンテーションでは各自で決めた好きなテーマについて現地学生を対象に調査を行い、それを英語で発表し、質疑応答を行ったりしました。プレゼンテーションにおいては、私は調査結果を基に支持政党と専攻分野の関係について発表しました。また、ラボツアーは化学系の研究室を、企業訪問はナスカーでのレーシングカーの工場や三菱重工の原子力事業を行っている会社等を見学させて頂きました。

次に、研修で特に上達したと思われる英語の技能はリスニングとスピーキングだと思います。理由は、現地の日本人以外とは英語で話さざるを得なかったからです。更に現地学生のペンパルとの連絡は直接話す以外では英語でメールやLINEで行う必要があったのでライティングの能力も向上したと考えています。とはいえ研修期間が3週間だけで、しかも日本人同士では授業中以外は日本語で話すことがほとんどであったので大きく英語が上達したとは考えておりません。そのため、今後の英語学習が重要であると考えています。

最後に、今後の学習計画についてです。3週間の研修において英語で上手く伝えたり、聞き取れたりできなかったと感じる場面が多々あり、研修を通してより上手くコミュニケーションを取れるようになりたいと思いました。更に、大学院に進学すると論文を読んだり、海外での学会発表を行ったりする上、海外の学生は国籍に依らず英語を話せるため、コミュニケーションを取るためにも英語を勉強する必要性をより強く実感したので今後、学科科目だけでなく英語の勉強にも大きく力を入れようと考えております。まずは英語でのコミュニケーションの基礎であるリーディングとリスニングの練習も兼ねてTOEICの勉強を今まで以上に進めたいと思います。また、卒業要件を満たすわけではありませんが、自由科目で科学技術英語を履修しており、更に今後英語の語学科目を継続的に履修しようと考えております。

このように、ノースカロライナ大学シャーロット校での研修プログラムによって英語や文化を学べただけでなく、今後の大学院に向けての学習の糧になりました。今後も、海外短期研修等を通して成長しようとする私達学生を支援して頂けるようお願い申し上げます。